



第七回 川越(河越)城

～北条氏康十倍の敵を破る！河越の夜戦～

今回ご紹介する川越(河越)城は、戦国の三大奇襲戦と言われる戦いの一つ、河越夜戦の舞台として有名な城です。織田信長の桶狭間の戦い、毛利元就の厳島合戦、そして北条氏康の河越夜戦。十倍の敵に完勝したと伝えられる戦いについてご紹介いたします。また、江戸時代に入ると、川越は江戸北方の守りとして代々有能な譜代大名が入り、小京都ならぬ小江戸と呼ばれて栄えて今日に至っています。

太田道灌による築城

鎌倉時代から、河越は源義経に娘を正室として嫁がせた河越氏の本拠地ではありましたが、河越城は、扇谷上杉氏家臣の太田道真・道灌父子によって築かれたものが始まりとされています。「江戸城」の回で詳しく紹介しましたが、室町から戦国時代の関東は、関東公方と呼ばれた足利將軍家の分家と、その執事である関東管領上杉氏によって支配され、それらが主従・同族間で分離・和合しながら、骨肉の争いが続けられていました。河越城は、江戸城、岩槻城とともに古河公方の勢力に備えるために築かれました。現在の関越自動車道のルートを見ても分かる通り、河越は武蔵国から上野国厩橋(前橋)へ至る街道を抑える要地だったのです。

河越夜戦

関東が干々に乱れて争い合っている間に、小田原から後北条氏が起り勢力を拡大していきます(鎌倉幕府執権の北条氏と区別するために後北条氏と呼ばれます)。初代北条早雲の息子氏綱の代になると相模から武蔵へ急激

に勢力を伸ばしました。そして北条氏綱は扇谷上杉氏から江戸城を奪い、更に河越城も奪取。娘婿の猛将、福島(北条)綱成を入れて守らせました。

しかし、そのすぐ後に氏綱が亡くなり氏康が後を継ぐと、扇谷上杉朝定は山内上杉憲政と組んで挙兵。北条から妻を迎えていた古河公方足利晴氏までも担ぎ出し、関東全域に号令して8万もの軍勢で河越城を囲みました。北条氏康は援軍を送ろうとしましたが、上杉方と通じた今川義元が国境の城へ攻め寄せたため容易に動くことができません。それでも福島綱成は3千の守備兵でよく持ちこたえます。そして氏康はようやく河越城救援に出陣しますが、その数はわずか8千に過ぎませんでした。十倍の兵力差を前にして、氏康は縁続きの古河公方に和議の仲介を申し入れます。しかし北条弱しと見た上杉方は全く応じません。そして戦を仕掛けては退却してはるか府中まで兵を引くこと数度。上杉方には楽勝ムードが漂っていました。しかしこの間、氏康は城内の綱成に連絡を付け、起死回生の策を練っていました。そして、入念に準備を整



河越夜戦の布陣想像図



東明寺境内の「川越夜戦跡」の碑

えると、夜襲を敢行したのです(地図参照)。油断しきっていた上杉勢は大混乱に陥りました。城の南方砂窪(現、川越市砂久保)に布陣していた山内上杉憲政は命がから平井城(現、藤岡市)まで落ちのび、扇谷上杉朝定は城の北方東明寺付近の乱戦で討ち死にしました(写真)。そして、城の富士見櫓からじっと戦況を見つめていた福島綱成は、頃合よしとみて一気に城を押し出すと城の東方に布陣していた古河公方の軍勢に攻め懸かり、これを潰走させたのでした。

この戦の後、関東の諸衆は次々に北条へ降り、後北条氏の関東支配が確立していきます。そして、平井城も落とされ、山内上杉憲政は家臣筋の長尾景虎を頼りました。その後、景虎は上杉の名と関東管領の職を譲られ、関東管領上杉謙信の誕生となるのです。

ところで、この河越夜戦は桶狭間の戦いや厳島合戦に比べると、あまり知られていません。というのも、一般に知られている上記のような戦の経緯は江戸時代に書かれた軍記物等の書物に詳しく書かれているものですが、そもそも軍記物という誇張の多い資料であるのに加えて、その他の資料との整合が取れない記述も多く、河越夜戦そのものの史実性さえ疑われているのです。しかし、夜戦だったかどうかは不明ながら、この日に河越城でかなり大規模な戦闘が行われ、その結果、後北条氏の関東支配が確立したことは確かなようです。

小江戸・川越の発展

江戸幕府が開かれると、川越は幕閣の老中を務めるような有能な譜代大名が代わる代わる入る重要な領地になります。三代将軍家光を補佐した「知恵伊豆」こと

まつだいらいずのかみのぶつな
松平伊豆守信綱は初期の頃の川越藩主で、川越城の拡張や基本的な町割を行いました。この時に川越発展の基礎が築かれたと言われています。新河岸川(地図参照)から荒川を通じて江戸へ直結する水運が整備され、特急便だと午後に川越で積み込まれた荷物は翌朝には江戸の各河岸で荷下ろしされていたといえます。名物川越芋が大量に江戸に運ばれるようになったのもこの水運のおかげだったのです。

現在の川越城

明治になると、土塁は崩され堀は埋められ、今では城内は小中学校や高校になってしまっていますが、本丸御殿の一部が現存しており、内部を観覧できます。川越高校の裏には富士見櫓の土台も残されており、ここに立つてみれば、起伏の少ない川越周辺が一望に見渡せたことが分かります。また、城址公園内の三芳野神社は童謡「とおりゃんせ」の天神様だと言われています。お城の中の神社は庶民が容易に参詣できなかったことから、歌詞の条件に最もよくあてはまるのだとのこと。現在はすっかり閑静な住宅街になっていますが、川越城の縄張りや現在の地図とを重ねた図が掲載された本丸御殿のパンフレットを見ながら歩けば、門番のいる城門をくぐって天神様へお礼を納めに行くという、おおよその道をたどることができます(写真)。

川越は、古い土蔵造りの商家が多く残る観光地でもあります(これらは明治に度々起こった大火を教訓として建築されたもの)。天気の良い週末にでも、一口饅頭や焼き煎餅などがじりながら蔵の町並みと城跡を散策してみたいはいかがでしょうか。



三芳野神社参道